

平生町立学校の将来の在り方検討委員会意見まとめ(第2回検討委員会を終えて 7/10 提出)

1 適正規模・適正配置の観点から

- (佐賀小の授業を参観して) 今年度は3・4、5・6が複式学級である。子どもたちは一生懸命授業に取り組んでいるが、1つの教室に2学年が入っているため、他学年の子どもたちの声が大きく、集中して学習することに困難を感じた。子どもの発達状況は様々であり、気にならない子もいるだろうが、こちらが感じる以上に気になる子もいるのではないかと。また、さらに児童数が減少し完全複式になった場合に、低学年の学びがきちんと保障されるのか、不安がある。

2 連携・協働を基盤とした学校づくりの観点から

- 「地域で子どもを育てる」ということには大賛成だが、学校は児童生徒と先生という関係で成り立っているということを、地域の方は忘れてはならないと思う。
- 児童には、「地域の人にハイタッチを強制されるのが苦痛で学校に行きたくない」という子がいると聞いた。地域の方と関わることで新たな学びを得られることは十分承知だが、ハイテンションな大人と触れ合うのが苦手な子もいる。地域が学校に入ることによって、子どもが学校に行きにくくなることはあってはならない。
- 資料16『「学校運営協議会及び地域協育ネットの在り方」等に係る検討資料』のP3『「地域協育ネット(クロッカスネット)」のイメージ図』の下に、『「生涯学習推進協議会」』『「青少年育成町民会議」』『「地域協育ネット運営委員会」』には、推進の目的やその活動、構成する組織等、重複するものが多くあるため、一度、これらの組織の在り方を含めて全体的に推進体制の在り方について検討する必要があると。』との文言がある。

構成する組織や役員が重複していることは以前から強く感じていたので、見直しについては賛成するが、目的が「地域で子どもを育成する」ことがメインなのか、地域の方たちの学習や活動がメインなのか等、一括りに考えていいものかどうかという疑問がある。スリム化を図ることができればよいとは考えるが、慎重に検討する必要がある。

- 平生町内全体での交流は、年代に関係なく、将来の町民の在り方としてとても大切である。
- 佐賀小が閉校しても、今の佐賀小を学習の場として利用するなど(ランチルームもあるので有効に利用、給食室を利用したシェアキッチン等)、新たな交流の場として利用できるとよい。

3 学びの連続性、小中連携教育・一貫教育

- 施設分離型小中一貫校と施設一体型小中一貫校のメリット、デメリットを記載したらどうだろうか。

➔ (事務局から) 一般的に、「施設分離型小中一貫校」と「施設一体型小中一貫校」では、小・中学校間を移動する手間・時間を問題視するか、その手間・時間を省こうとするか否かということがとても大きいと考えられます。その他には、小中学校の節目(気持ちの切り替え)の面や、小中学校教職員の相互理解面などのメリット・デメリットが考えられます。

- 佐賀小出身の生徒が中学校で不登校になると、人数が増えたことに対する不適応とすぐに結び付けてしまうことに違和感がある。(不登校の原因は1つとは限らず、自身にも原因がはっきりと分からないことはよくあるということも言われている。)

- 佐賀小高学年の平生小交流授業の様子(佐賀小児童の感想等)を記載したらどうか。

→ (事務局調べ) 佐賀小5・6年生から7名抽出

		第1回	第2回
5年生	A	1回も発表しなかったので発表したいと思いました。自分から積極的に話かけられてよかったです。相手からも話しかけてくれて、友達も作りやすかったです。保育園のときの友達もいました。	外国語のダンスで自分らしさを出せたのでよかったです。友達も増えて、平生小の雰囲気慣れたので学習しやすくなりました。
	B	※前日の日記に「いやだー!」と書いていた。よかったことは、平生小に友達がたくさんできたことです。それに、平生小の勉強の仕方や流れなどがよく分かりました。算数で、やっていない小数のわり算の問題が難しかったけど、友達と話す機会は増えたのでよかったです。今回は、教えてもらうことや支えてもらうことが多かったけど、次はこっちも支えたいです。何か少しでも役に立てることを見つけていこうと思いました。	やっぱり楽しいです。いつもとは違う教室、大きい校内、女子の友達。優しく教えてくれる友達もいました。
6年生	C	友達が多くできて、女子のほとんどと仲良くなりました。次は、もっと友達と仲良くしたいです。平生小の人がみんな優しくよかったです。次も楽しみです。平和で良かったです!	1回目に友達になった人とまた会えて一緒に授業ができたのが楽しかったです。業間も友達と遊んだりできたので楽しかったです。また行くのが楽しみです。
	D	よかったことは友達ができたことです。次はもっと友達を作りたいです。困ったことは、下の方に書いた字が見えなかったのが、前の席にしてほしいです。	2学期には1～6時間目までいたいです。
	E	少し友達ができたのがよかった。次に友達をもっと作りたい。	1回目は友達ができたけど、2回目は全然出来なかった。
	F	友達が2人できました。もっと友達を増やして、そして仲を深めたいです。	友達が5・6人できてよかった。国語でたくさん発表しました。
	G	平生小の人がわからないことを教えてくれたり、業間時間に話しかけてくれて一緒に遊んでくれたりしてくれたのでうれしかったです。次は話せるようになります。	友達と少ししか仲良くなれなかったけど、理科の時に近くの人が教えてくれてうれしかったです。

- (佐賀小の平生小交流授業を参観して) 6年生算数の意見発表の場面では、たくさんの児童の目を気にしながらも堂々と発表し、発表後は嬉しそうな誇らしげな表情を浮かべていた。いろいろな児童の意見を参考にしながら授業が深まっていて、多人数で学ぶことの良さを感じた。佐賀小の子どもたちには、こういう機会を増やしてほしいと感じた。

- 少人数のよさは分かるが、多くの人と関わりながら成長していくことの大切さは誰もが願うことである。佐賀小と平生小の高学年の交流授業が今年度から強化されていると聞いたが、少しでも中一ギャップに効果が上がるとよい。

4 学校施設の更新時期

- (施設一体型小中学校新設を想定した質問)

南海トラフ巨大地震が起きた場合には、その津波等の影響は、平生小と平生中のそれぞれに建設した場合ではどのようになるかを答申に記載するのはどうか。

→ (事務局から)

ハザードマップ（最大規模の降雨や台風の規模から最悪事態の想定）から、
佐賀小と平生中：土砂災害警戒区域（土石流警戒区域）
平生小：洪水浸水想定区域(0.5m 未満(1 階床下浸水))、
高潮浸水想定区域(0.5～3.0m(1 階床上～2 階床下))

- 新設する場合、校舎建設時の子どもの学びを確保するために、仮設校舎をつくるのか、既存校舎は使えるのか。

5 その他

- 「章立ての案」については意見なし。（このとおりでよい）
- 第3回検討委員会では、「ゴールイメージのどれをめざすのか」「施設一体型小中一貫校の是非」「佐賀小の閉校について」を議論し、まとまった後に「学校施設の新築（更新）時期」の議論に移るべきと考える。